

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102412		
法人名	医療法人 敬天会		
事業所名	グループホーム 野の実		
所在地	〒859-0417 諫早市多良見町船津299-6 (電 話) 0957-44-1991		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成20年1月21日	評価確定日	平成20年3月6日

【情報提供票より】(19 年 4 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤	人, 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 ~ 48,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(家賃の3か月分 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円		
	夕食 円 おやつ 円		
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(4 月 1 日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清原龍内科・すばる診療所・西諫早病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大村湾を一望する「みかんどころ伊木力の丘」に位置し、迎え入れる木製の案内板から、ホームへ続くアプローチ、瀟洒な建物の木のぬくもりが優しい雰囲気を感じ出している。玄関を入ると木の香りが広がり、生けられた季節の花が目に入る。リビングには大きな暖炉が、ゆったりと温かく迎え入れ、居室の表札、掲げられた理念、入居者作品の展示、壁飾りの中にも、総合的に統一された自然感がある。又、斜面利用の畑は入居者と共に収穫の喜びをもたらし、旬の食材で食卓が賑わう光景も見られる。うらなりの柿をもぎ、干し柿にする風景や落ち葉を集めた焚き火で焼き芋をする光景など、四季の織り成す自然の営みは、入居者方々の原体験をよみがえらせる一助になっているようである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 個別記録の最初にケアプランが綴じられ、記録するたびに目にすることができ、職員間の共有が図られている。ケアプランの反映部分には黄色のマーカーで分かり易い工夫がみられたが、ケアプランのどの目標を反映したのかまでには至っておらず、未だ改良途上であり、更なる記録の充実に期待する。運営推進会議はこれまで2回の開催であり、今後は2ヶ月に1回の開催が望まれる。緊急時の対応については、マニュアルが整備され、実践に生かされている。スロープの石畳は、入居者・訪問者の足元の安全、介護者の負担軽減につながるような検討が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を全員で話し合い、改善できるところから取り組んでいる。今回の自己評価シートは職員全員に配布され、それぞれが記入したものを、管理者が集役し、会議において皆に図り作成されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 第1回は3月18日で、地域密着型サービス、運営推進会議、活動報告等が議題に上がり、地域との繋がりが自治会加入の事などの意見交換が行われている。10月24日の第2回は活動報告・前回の検討事案である自治会へ加入の報告がなされている。介護保険の現状説明が、市職員からなされており、地域への関わりについての意見交換は活発で、事業所との相互理解が深まっている事が窺える。今後は老人会・婦人会・子ども会・消防・警察などへ参加を呼びかけるなど、更なる地域に根ざした活動に期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見箱が設置されているが利用はあまり無く、面会時に気がけて声掛けし、入居者の状況報告をしながら、思いや意向など気軽に言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。又、出された要望や意見には柔軟に対応されているが、家族等は意見や不満、苦情を言い出し難いということを理解し、意見・苦情は事業所にとって大切な宝と前向きに受け止め、活かしていく事業所側の姿勢と、積極的に意見を聞きだす場面作りに期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、清掃活動などが行われている。運営推進会議での活発な意見交換は、散歩の際の道路の両脇に繁った雑草が危険要因だと気づき、刈ってもらったり、散歩の途中にあるみかんを頂く事もあり、相互理解のいい機会になっている。又、地元のコーラスやフラダンスとの交流があり、ボランティアの受け入れ態勢もできており、ケアの情報交換の拠点として、更に地域に開かれていく事に期待する。

特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『すべてはご利用者と家族のために、私たちはあなたがあなたらしくいつまでも そしていついかなるときも 心豊かに暮らせるように寄り添っています』という理念が掲げられている。人権と尊厳に配慮されているが、地域密着型サービスの役割が盛り込まれているとは言いがたい。		地域密着型サービスの役割と意義を職員全員で確認し、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を、事業所としてどう支えていくかなど、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容も理念の中に盛り込まれる事に期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に建物の雰囲気と調和して掲げられている。毎月1回の会議のときや、困ったときの振り返りとしている。しかし、1日に1回の確認の振り返りには及んでいない。		例えば、毎朝の申し送りの時など、1日に1回でも唱和し、その日、理念のどの部分を強調して意識したケアを行うかなど、全員で確認する機会があれば、理念の意識付けの振り返りとなり、更に良いのではないか。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、入居者と共に清掃活動に参加している。地域の祭りや小学校の運動会・学習発表会にも積極的に参加している。近隣の住民のサポートが日常的に得られ、入居者の知人等の来訪もある。入居者の散歩には地域の方も関心を持って見守ってられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 .運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には12月頃より1ヶ月程、時間をかけて取り組んでいる。日々のケアの振り返りとする事、日常の業務に終われ、見落としをしているような事の点検になるなど、管理者・職員共に評価の意義を理解している。		自己評価は項目一つ一つを職員全員で点検していく過程が重要であると思われる。年1回の評価を点検しやすい項目から計画的にはじめ、継続的に行い、更なる質の確保の定着に期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、これまでに2回開かれている。ホームの活動状況などが報告され、地域の方々の関心と理解は深く、活発な意見交換がなされている。しかし、2ヶ月に1回の開催となっていない。又、自己評価の内容を説明する事、外部評価の結果を公表するまでには至っていない。		運営推進会議は2ヶ月に1回の開催に期待したい。又、老人会や婦人会、子ども会への参加も視野にいれて、地域包括支援センターなどにも参加を呼びかけるなど、幅広い立場への積極的な働きかけに期待する。又、自己評価の内容を説明する事、外部評価の結果を公表し、改善経過のモニター役になってもらうなど、年1回の評価の効果を高めるため相乗効果に期待する。

グループホーム 野の実

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上分からない事は、電話や、出向いた時に尋ねている。		市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアの取り組みを 折に触れ伝えることや、市職員の研修場所として活用してもらうなど、積極的に協働していく事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には、気軽に声掛けし、入居者の状況などが報告されており、行事やお楽しみ会などは毎月1回の「野の実だより」で、写真を掲載して報告している。又、金銭管理については、月に1度、帳簿により報告があり、その時々電話連絡等適時行っている。職員の交代については、「入居者には知らせない方が良い」という事業所側の判断があり尊重すべき状況が窺え、報告はなされていない。		職員交代については家族等が不安や不満を持ちやすい部分でもあり、便りの中に紹介するなど家族等へも配慮した対応が望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口が設置されている。意見箱も設置されているがあまり利用がない。家族面会時にはよく声かけし、ご希望は職員の連絡ノートに記載し、共有されているが、積極的に意見を聞きだす場面作りに至っているとは言いがたい。		家族等は、意見や苦情を言いにくいという事情を理解し、例えば家族会等を設け、職員は席を外し、家族同士で話し合ってもらう時間をとったり、テーマを決めてアンケートを集計するなど、意見を出せるような仕組みや場面づくりの工夫に期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員が入る時は、入居者に紹介し、馴染みの職員と共にケアの対応を行っている。職員退職の折は、入居者の状況などにより、特別に知らせることはしていない。家族にとっては、関心事であり、知らせることによって安心にも繋がると思われるので、お便り等に一言添える等の工夫に期待したい。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者は、研修の必要性に理解があり、必要な研修は奨励している。研修会参加の折は報告書を作成後、会議の時に発表し、職員への共有を図っている。しかし、外部研修には費用の負担が大きいことから、推奨しにくい面がある。		理解や習熟度に応じ段階的に力を付けていけるよう、働きながらの職員育成や実務に支障をきたさないよう職員とも十分に話し合いながら、年間計画の中で研修を位置づける運営面での工夫が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に参加している。3月の諫早ケア大会には、9月に実施した嬉野温泉への一泊旅行の体験報告の機会を得ている。医療連携の提携医院の勉強会や、「認知症を抱える家族の会」へ月1回参加し、サービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	始めに、家族の見学・相談面接を経て、気に入って頂いたところで、本人に体験入居して頂いている。住所地移転の手続き等、必要な場合があり、馴染めるまでは家族の面会を頻繁に促し、帰宅願望には外泊・外出で適時応じながら、そのまま入居に至った例があり、家族と相談しながら工夫して対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 (職4) 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩の年長者と尊重し、昔からの生活の技などを教えてもらう場面が多くある。漬物の漬け方・つるし柿・わら草履の作り方を教わったり、生花の先生をされていた入居者には、ホームの花を生ける役割を、自ら担っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が一人になった時に会話の中や入浴時のリラックス時、ドライブの途中に懐かしい風景に出会った時等、さりげなく思いや意向等聞きとっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャー・担当者を中心に全員で意見交換し作成している。しかし、本人や家族には日頃の関わりの中で、思いや意向等、聞き取り反映するようにしているが及んでいない部分がある。		ケアプランについての話し合いには、家族への説明に留まらず、家族や本人がどのように暮らしたいのかなど、深めた話し合いになる事を希望する。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者・ケアマネジャー・職員で話し合い、3ヶ月に1度の見直しや期間終了前での状態変化時には、その都度、気づきや意見を反映し、本人に応じた見直しが行われている。昨年の改善項目である個人記録の改善が見られているが、改善途上にあり、更に簡潔・明確、ポイントを外さない記録の方法や時間の短縮に繋がる改善の工夫に期待したい。		個人記録にはケアプランの目標項目に黄色のマーカーで色分けされ改善が見られている。ケアプランの、どの目標がどの記録に反映されて実践されているか、その日の評価や気づきまで一覧できるようにすると、見直しがより簡潔で明確になり、記録に費やす時間の短縮にも繋がるので、今後の取り組みに期待したい。

グループホーム 野の実

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族参加の一泊の温泉旅行を実施している。週に1度の夜間往診に応じて頂いたり、通院や送迎など、本人や、家族の状況に応じて柔軟に対応し、口腔ケアの指導などが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度、主治医の往診がある。近くの病院へのリハビリや歯科医院の義歯調整、日赤病院など、これまでの医療機関への通院を継続して支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化への対応については、入居時に説明がなされ、家族より同意が得られている。本人の希望を踏まえ、家族とも相談しながら、安心した終末期を迎えられるように取り組んでいる。又、容態の急変にもすぐに対応できるような医療機関との連携がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者に対する言葉や語調は柔らかで優しい。トイレには分かり易く「使用中・空いている」の札が裏表で表示されている。又、入居者の前で記録をしないなど、個人情報の保護に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	若い頃に、アルプスまで踏破されたという入居者が、散歩に出られる時は、その健脚ぶりに職員の方が追いつかないくらいだが、安全・安心の工夫をしながら付き添い支援している。		

グループホーム 野の実

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は皮むき、野菜刻みなどの下ごしらえや、味見・盛り付け、後片付け茶碗拭きなどに力を発揮されている。時には出前の寿司があったり、食器や盛り付けにも配慮があり、職員も共に食事を楽しむ工夫がある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでの生活習慣を考慮し、夜間入浴を試みた事もあったが、入居者の生活のペースが崩れるなどがあり、現在は、日中の入浴となっている。大村湾を望む露天風呂の雰囲気があり、馴染めない方には、すだれで調節するなど、その人にあった支援がなされている。又、希望があれば毎日でも対応できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	敬老会では家族も含め、嬉野温泉へ一泊旅行が行われている。又、買い物やドライブ、散歩などで気分転換が図られており、食事の下ごしらえ、配膳・下膳・後片付け、植木の水やり、手入れ、掃除等、自然な形で役割の支援が入居者の生き活きた表情に繋がっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時津、諫早、長崎市内などへの買い物、あぐりの丘へなど遠出のドライブ、周辺地域への散歩などと、天気や入居者の気分や希望に応じ、適時に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望のある入居者には、止めるのではなく付き添い心落ち着かれるまで寄り添っている。健脚でならした入居者が外へ出られるときは、いつでも付き添い、安全に配慮し見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区の消防団や住民参加の避難訓練が年2回実施されている。出火の際は近隣の住民に自動的に電話連絡が入っている。		

グループホーム 野の実

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立で、主食・副食の摂取量の記録があり、職員で共有されている。水分摂取に関しては、1,000CCを目安に、3度の食事・2回のおやつ・服薬時・入浴後と職員は、一日の総量を、おおよそ把握している。状態に応じて、とろみを付けたり、刻み食が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けに置かれた背の高い観葉植物が目優しくゆったりと寛げる雰囲気がある。大きな文字の時計は目線に合わせて掛けられている。斜面の立地が、よく活かされ、臨む場所ごとの景観がそれぞれ違い、変化があり、自然の採光にも配慮され、入居者はそれぞれの場所で寛いでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計や写真・テーブル・机・椅子・仏壇・引き出しなどそれぞれに馴染みの物が持ち込まれ、洋室、和室とそれぞれにその人らしく居室の支援がなされている。		